

研究報告書第86号

平成26年度 教科に関する研究
研究主題「思考力・判断力・表現力を育む学習指導と評価」



茨城県教育研修センター

平成26年度 教科に関する研究

研究主題「思考力・判断力・表現力を育む学習指導と評価」

1 研究の趣旨

思考力・判断力・表現力を育む学習指導と評価に関する研究を行い、各学校での学習指導の改善・充実に資する。

2 研究主題

(1) 「教科に関する研究」の研究主題

思考力・判断力・表現力を育む学習指導と評価

(2) 教科別研究主題

○ 国語（小学校，中学校，高等学校）

論理的に思考し表現する能力を育む国語科学習指導と評価

－目指す児童生徒の姿を明確にした授業づくりを通して－

○ 社会・地理歴史・公民（小学校，中学校，高等学校）

社会的な思考力・判断力・表現力を育む社会・地理歴史・公民科学習指導と評価

－目指す児童生徒の姿を明確にした授業づくりを通して－

○ 理科（小学校，中学校，高等学校）

科学的な思考力・表現力を育む理科学習指導と評価

－問題解決の過程を踏まえ，目指す児童生徒の姿を明確にした授業づくりを通して－

○ 図画工作（小学校）美術（中学校，高等学校）

感性や想像力を働かせて，思考力・判断力・表現力を育む図画工作・美術科学習指導と評価

－〔共通事項〕を視点に，かいたり伝え合ったりする言語活動を位置付けた授業づくりを通して－

○ 家庭（小学校，高等学校）技術・家庭（中学校）

生活を工夫し創造する思考力・判断力・表現力を育む家庭科，技術・家庭科学習指導と評価

－生活の課題に対して最適な解決策を追究する授業づくりを通して－

3 研究期間

平成26年度（1年間）

4 研究の方法

(1) 各教科ごとに研究協力員を委嘱して，4回の研究協議会を開催する。

(2) 研究主題「思考力・判断力・表現力を育む学習指導と評価」を設定するとともに，各教科ごとに教科別研究主題を設定して研究を進める。

(3) 各教科別研究主題に基づき、校種ごとに研究協力員の所属校で、授業研究を実施する。

5 研究主題について

小・中・高等学校学習指導要領解説総則編において、確かな学力を育成するためには、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させることと、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育むことの双方が重要であり、これらのバランスを重視する必要があると述べられている。また、平成22年3月に出された中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会報告「児童生徒の学習評価の在り方について」（以下「報告」という。）においては、学習評価を通じて、教師が授業の中で児童生徒の反応を見ながら学習指導の在り方を見直したり、一連の授業の中で個に応じた指導を図る時間を設けたりすることなど、指導と評価の一体化の重要性が示されている。さらに、報告では、「思考・判断・表現」の観点について、総括的な評価を行う際に、思考・判断の結果だけでなく、その過程を含め評価することが特に重要であることが示されている。これらのことから、思考力・判断力・表現力をより確かに育むためには、児童生徒の思考過程を含めた評価を行い、一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し、学習指導の改善に生かすことが必要である。

本教育研修センターでは、平成21、22年度の2年間の研究において、児童生徒に思考力・判断力・表現力を育むことを目指して、教科ごとに言語活動を中心とした学習指導の研究を行った。また、平成23、24年度の2年間の研究では、先の研究を発展させ、教科ごとに主題を設定し、授業実践研究を行った。これらの研究の成果として、言語活動を取り入れた各教科の学習指導法の改善や思考力・判断力・表現力を育むために効果的な教材・教具・資料の開発等を行うことができた。しかし、思考・判断し表現する力の高まりの見取りや各観点ごとの評価方法等に課題が残った。

今回の研究を進めるに当たって、学習指導と評価に関する実態調査を実施した。「評価したことを指導に生かすことができている」の問いについて「そう思う」、「まあそう思う」と答えた教師の割合は合わせて9割以上であり、指導と評価の計画を立てること、目標及びねらいから授業を構想すること及び学習状況から授業を省察し授業改善することなどに取り組んでいることが分かった。一方、評価結果について教師間で検討すること及び評価方法を工夫することなどが課題となっており、特に「思考・判断・表現」の観点到係る学習状況の評価については、評価方法の選択、評価規準の設定及び評価規準を踏まえた課題の設定等が課題となっていることが分かった。

そこで、これまでの研究の成果及び実態調査の結果を踏まえ、学習状況を「思考・判断・表現」の観点から適切に評価し、評価結果を基に指導を改善する「指導と評価の一体化」を進めていくことが重要であると考え、本研究主題を設定した。

6 研究のねらい

本研究は、学習指導要領や報告の趣旨を踏まえ、児童生徒の学習状況を適切に評価し、評価を指導の改善に生かすという視点を一層重視し、思考力・判断力・表現力を育む学習指導が行えるよう指導の在り方について工夫改善を図ることをねらいとしている。

資料 研究主題に関する実態調査

(1) 調査期間

平成25年3月1日から平成25年3月14日

(2) 調査対象

県内公立小学校549校，公立及び県立中学校232校，県立高等学校99校分校1校，県立中等教育学校1校

(3) 回答総数

578件（小学校343件，中学校142件，高等学校93件）

(4) 回収率

65.5%

(5) 設問・回答

設問1 観点別学習状況の評価が適切に行われている

(%)

	小学校	中学校	高等学校	総数
そう思う	56.6	59.2	15.0	50.5
まあそう思う	43.4	40.8	49.5	43.8
あまりそう思わない	0.0	0.0	35.5	5.7
そう思わない	0.0	0.0	0.0	0.0

小・中学校においては、「そう思わない」，「あまりそう思わない」の回答が無かった。高等学校においては、「あまりそう思わない」という回答が3割強であった。

設問2 観点別学習状況の評価を適切に行うために取り組んでいること

(複数回答可)

(%)

	小学校	中学校	高等学校	総数
評価規準の設定	92.4	93.7	84.9	91.5
評価時期の設定	36.2	37.3	34.4	36.2
評価方法の選択	53.9	61.3	50.5	55.2
評価規準を踏まえた課題の設定	40.5	51.4	35.5	42.4
課題解決の過程の評価	34.1	26.1	10.8	28.4
「おおむね満足」「十分満足できる」と判断する学習状況の例示	30.0	27.5	7.5	25.8
評価結果のフィードバック	28.0	21.1	15.1	24.2
評価情報を基にした評価の総括	21.0	18.3	12.9	19.0
評価に係る教師間の共通理解	69.7	83.1	76.3	74.0
特になし	0.0	0.0	1.1	0.2
その他	0.0	0.7	2.2	0.5

観点別学習状況の評価を適切に行うために、「評価規準の設定」に取り組んでいるという回答が、小・中学校では9割、高等学校では8割を超えた。「課題解決の過程の評価」、「評価結果のフィードバック」、「及び評価情報を基にした評価の総括」については、取り組んでいる学校が3割未満であった。

設問3 観点別学習状況の評価を適切に行うために課題となっていること
(複数回答可) (%)

	小学校	中学校	高等学校	総数
評価規準の設定	16.6	24.6	46.2	23.4
評価時期の設定	9.6	14.8	15.1	11.8
評価方法の選択	23.3	23.9	44.1	26.8
評価規準を踏まえた課題の設定	39.1	40.1	36.6	38.9
課題解決の過程の評価	39.4	34.5	30.1	36.7
「おおむね満足」「十分満足できる」と判断する学習状況の例示	38.8	39.4	19.4	35.8
評価結果のフィードバック	36.2	43.0	33.3	37.4
評価情報を基にした評価の総括	21.0	23.9	22.6	22.0
評価に係る教師間の共通理解	25.9	32.4	40.9	29.9
特になし	1.5	1.4	2.2	1.6
その他	0.3	0.0	0.0	0.2

小・中学校においては、「評価規準を踏まえた課題の設定」、「課題解決の過程の評価」、「『おおむね満足』『十分満足できる』と判断する学習状況の例示」、「評価結果のフィードバック」が課題として挙げられている。高等学校においては、「評価規準の設定」、「評価方法の選択」、「評価に係る教師間の共通理解」及び「評価規準を踏まえた課題の設定」が課題として挙げられている。

設問4 「思考・判断・表現」の観点に係る学習状況の評価が適切に行われていること
(%)

	小学校	中学校	高等学校	総数
そう思う	36.4	35.9	9.7	32.0
まあそう思う	62.7	63.4	59.1	62.3
あまりそう思わない	0.9	0.7	31.2	5.7
そう思わない	0.0	0.0	0.0	0.0

小・中学校においては、「そう思う」が3割強、「まあそう思う」が6割強である。高等学校においては、「まあそう思う」が5割強、「あまりそう思わない」が3割強という結果である。

設問5 「思考・判断・表現」の観点に係る学習状況の評価を適切に行うために課題となっていること

(複数回答可)

(%)

	小学校	中学校	高等学校	総数
評価規準の設定	33.8	40.1	60.2	39.6
評価時期の設定	10.8	9.2	9.7	10.2
評価方法の選択	36.7	41.5	51.6	40.3
評価規準を踏まえた課題の設定	36.4	43.7	40.9	38.9
課題解決の過程の評価	39.1	34.5	21.5	35.1
「おおむね満足」「十分満足できる」と判断する学習状況の例示	42.6	38.0	20.4	37.9
評価結果のフィードバック	21.9	25.4	22.6	22.8
評価情報を基にした評価の総括	15.7	19.0	21.5	17.5
評価に係る教師間の共通理解	36.2	34.5	39.8	36.3
特になし	0.9	0.7	2.2	1.0
その他	0.0	0.0	1.1	0.2

小学校では、「課題解決の過程の評価」及び「『おおむね満足』『十分満足できる』と判断する学習状況の例示」が課題として挙げられている。中学校では、「評価規準の設定」、「評価方法の選択」、「評価規準を踏まえた課題の設定」が課題として挙げられている。高等学校では、「評価規準の設定」、「評価方法の選択」、「評価規準を踏まえた課題の設定」及び「評価に係る教師間の共通理解」が課題として挙げられている。

設問6 「思考・判断・表現」の観点に係る学習状況の評価方法として実際に用いているもの

(複数回答可)

(%)

	小学校	中学校	高等学校	総数
ペーパーテスト	95.6	95.1	89.2	94.5
レポート	78.4	89.4	88.2	82.7
作品	86.9	81.7	80.6	84.6
実技や実演	72.6	79.6	77.4	75.1
観察	85.1	80.3	55.9	79.2
児童生徒との対話	38.5	32.4	25.8	34.9
ノート	96.5	90.8	77.4	92.0
ワークシート	87.2	88.7	57.0	82.7
学習カード	73.8	76.1	10.8	64.2
質問紙	12.5	11.3	4.3	10.9
面接	2.0	3.5	6.5	3.1
ポートフォリオ	44.0	38.7	12.9	37.7
特になし	0.0	0.0	1.1	0.2
その他	0.6	0.0	0.0	0.3

実際の評価方法としては、校種を問わず、「ペーパーテスト」、「レポート」、「作品」、「ノート」、「ワークシート」が8割以上の学校で取り入れられている。

設問7 評価したことを指導に生かすことができている

(%)

	小学校	中学校	高等学校	総数
そう思う	29.3	29.8	7.5	25.8
まあそう思う	69.2	66.9	71.0	68.9
あまりそう思わない	1.5	3.3	20.4	5.1
そう思わない	0.0	0.0	1.1	0.2

小・中学校において、「そう思う」が3割弱であり、「まあそう思う」が7割弱である。高等学校においては、「まあそう思う」が7割強、「あまりそう思わない」が2割程度という結果である。

設問8 指導と評価の一体化を図るために取り組んでいること

(複数回答可)

(%)

	小学校	中学校	高等学校	総数
指導と評価の計画を立てる	58.9	69.7	57.0	61.2
指導内容に合わせて具体的に評価規準を設定する	43.4	54.9	30.1	44.1
目標及びねらいから授業を構想する	73.8	76.1	55.9	71.5
評価方法を工夫する	42.3	45.8	49.5	44.3
評価結果について教師間で検討する	25.9	34.5	35.5	29.6
学習状況から授業を省察し授業改善をする	65.3	68.3	45.2	62.8
個に応じて指導の手立てを講じる	67.1	53.5	37.6	59.0
特にない	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0

評価したことを指導に生かすために、小学校では「目標及びねらいから授業を構想する」、「学習状況から授業を省察し授業改善をする」及び「個に応じて指導の手立てを講じる」ことによく取り組んでいる。中学校では「指導と評価の計画を立てる」、「目標及びねらいから授業を構想する」及び「学習状況から授業を省察し授業改善をする」ことによく取り組んでいる。高等学校では、小中学校に比べ取り組みの度合いは低い、「指導と評価の計画を立てる」ことに最も取り組んでいる。

設問9 指導と評価の一体化を図るために課題となっていること
(複数回答可)

(%)

	小学校	中学校	高等学校	総数
指導と評価の計画を立てる	17.5	16.9	30.1	19.4
指導内容に合わせて具体的に評価規準を設定する	39.7	36.6	57.0	41.7
目標及びねらいから授業を構想する	23.9	15.5	20.4	21.3
評価方法を工夫する	44.6	43.0	43.0	43.9
評価結果について教師間で検討する	42.0	50.0	43.0	44.1
学習状況から授業を省察し授業改善をする	34.1	39.4	31.2	34.9
個に応じて指導の手立てを講じる	37.3	52.1	36.6	40.8
特にない	0.9	0.7	2.2	1.0
その他	0.3	0.7	0.0	0.3

小学校では、「指導内容に合わせて具体的に評価規準を設定する」、「評価方法を工夫する」及び「評価結果について教師間で検討する」ことが課題として挙げられている。中学校では、「評価方法を工夫する」、「評価結果について教師間で検討する」及び「個に応じて指導の手立てを講じる」ことが課題として挙げられている。高等学校では、「指導内容に合わせて具体的に評価規準を設定する」、「評価方法を工夫する」及び「評価結果について教師間で検討する」ことが課題として挙げられている。